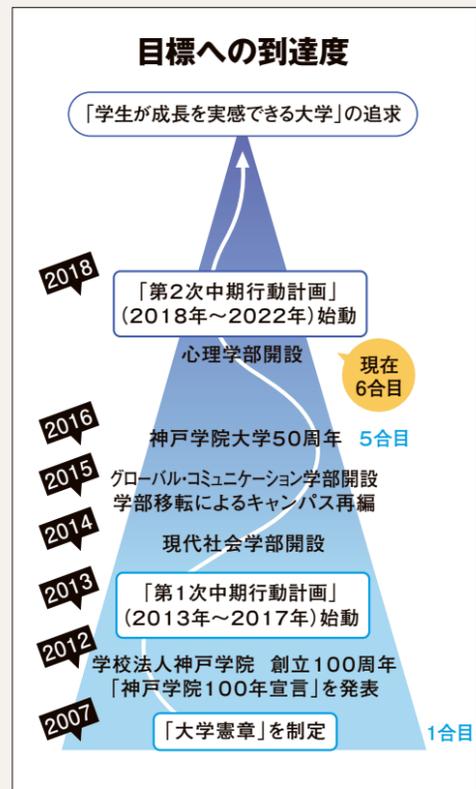




さとつ・まさみ ●1956年兵庫県生まれ。大阪大学法学部卒業。同大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得満期退学。摂南大学、甲南大学での非常勤講師を経て、1988年神戸学院大学法学部講師。助教授を経て2002年教授。その間、1993-95年英国リーズ大学客員研究員。法学部長、副学長を歴任し、2016年より現職。専門は刑法(英米刑法、法人の刑事責任)。

さらに共通教育センター、教職教育センター、キャリア教育センターを統合する形で「全学教育推進機構」を整備しました。これにより学修成果の可視化やFDなども全学で統一に行うことが可能となり、学生の教育に大学として

2017年4月に、スポーツ系、文化系のクラブが行ってきた地域連携活動を1つにまとめて「神戸学院大学総合型地域スポーツ・文化クラブ」を設立しました。これ



新学部の新設を果たし 発展の基礎を築く

本学では2013年度に「中期行動計画」を策定し、この5年間で多くの改革を行ってきました。2014年度には現代社会学部を新設しましたが、これは阪神・淡路大震災の震源地に最も近い総合大学として防災面での社会貢献に力を入れてきた教育研究活動が結実したものです。2015年度には本学の国際化を牽引するグローバル・コミュニケーション学部を開設しました。伝統的な学部が多い本学に、こうした新しいタイプの学部が加わることで、総合大学としてさらに厚みを増すことができたと考えています。

また、2018年度からは、「第2次中期行動計画」がスタートします。2016年度の大学創立50周年の際に公表した「未来50年」神戸学院大学が進むべき道筋で示した重要課題も本計画に組み込まれています。選択と集中により施策を絞り込み、確実に実行できるように改革を進めていきます。

地域の一員になり その中で学生が育つ

心理学部の新設により、ポートアイランドと有瀬の2つのキャンパスに5学部ずつ、それぞれ文系・理系の学部がバランスよく設置されることとなります。今後は、それぞれのキャンパスの環境や設置学部の特色を生かした教育を深めていきます。

2018年度には、心理学部を新設します。新たに創設された心理専門職の国家資格「公認心理師」の受験資格に対応しており、次年度には大学院を開設計画です。

しっかりと責任を持つしくみができ上がりました。

大学進学が珍しかった時代には、大学に入学するだけで学生のモチベーションは高まっていた。しかし、大学等進学率が50%を越えている今、大学に進学することは学生にとって普通のことにな

学生の伸びしろを 信じてあげることが出発点

地域の一員として学生が育つ、地域に信頼される大学へ

学生が成長を実感できる 大学づくりを推進

なっています。加えて、希望する大学に合格できなかった不満や偏差値に対するコンプレックスを抱えたままの者もいます。必ずしも全員が高いモチベーションを持って大学に入学しているわけではありません。それでも学生たちは大学での学びに4年間という時間を費やす覚悟を持って入学してきま

す。そうした学生たちの成長の可能性を見据えて教育することは、ユニバーサル化した大学が果たすべき重要な役割だと言えます。

学生の学ぶモチベーションを高めるには、まず、教職員が学生の「伸びしろ」を信じてあげることが、教職員が働きかけることで学生自

には2つの意義があります。一つは、地域の人々との交流を深化させ、地域における大学の存在感を高めること。もう一つは、学生が地域の中に自分の活動の場を見つけ、地域の発展とともに自分も成長していくことです。

こうした取り組みはクラブ活動だけではなくありません。2017年に開催7回目を迎えた神戸マラソンには、本学から600人を超える学生がボランティアとして参加しました。地域の大きなイベントに参加し、その成功に貢献すること、多くの学生が「地域の一員になります。知らない人同士、互いに協力しながら活動すること、コミュニケーション能力も磨かれます。

2017年4月には附属中学校



神戸学院大学・学長
佐藤雅美

荒波に挑むトップ
私の改革論

No.24

神戸学院大学 ●1966年、創立 ▶9学部13学科7研究科を設ける総合大学、学生数約1万1000人 ▶建学の精神は「真理愛好・個性尊重」▶THE世界大学ランキング日本版2017 / 総合131-140位、教育リソース68位、教育成果147位

取材・文 / 仲谷宏 撮影 / 楠本夏彦

身が自分の「可能性」に気づくことが大切です。大学における人材育成は、専門教育を縦軸とし、横軸に教養教育や課外活動など、学生の人間性や主体性、コミュニケーション能力などを育む活動を置いた2軸で捉えられます。縦軸では教員が学生を巻き込むような教育・研究をする、横軸では教職員が大学のさまざまな活動に学生を巻き込んでいく——そうした縦軸と横軸の教職協働により学生は成長し、学びのモチベーションは高まります。

社会からの信頼は 大学が生き残る条件

18歳人口の減少が再び本格化する中、大学が生き残る方法の一つに、社会から信頼されることが挙げられます。社会から信頼されるには、社会が必要とされている人材を輩出することが肝要です。

グローバル人材の育成を例にとると、高度な語学力を駆使して海外や外資系の企業で活躍する人材も必要ですが、地域の中で国際感覚を持ってグローバル化に対応する人材も必要です。地域の大学が地域社会から信頼を得るには、そうした地域人材の育成が求められます。

を開校しました。これにより、その前年度に移転してきた附属高校と合わせて、ポートアイランドに中高大の3つがそろった教育環境を整えることができました。中高大での連携プログラムを企画するなど、オール神戸学院で地域の教育ニーズに応えることにも取り組んでいきます。

本学は「学生が成長を実感できる大学」をめざしています。学生が自分の成長を実感できるかどうかは、卒業するときに「この大学に来てよかった」と思えるかどうかにかかっていると考えるでしょう。教職員にとっても、学生の成長が実感できる教育を実践できたかが重要です。この視点を大切に、今後の大学運営を進めていきます。

*Interprofessional Education